

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和4年4月

少しずつ暖かくなり春らしさを感じられる頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？さっそく Newsletter 第49回配信です！どうぞお楽しみください。

〈診療科紹介 整形外科〉

学生の皆さん、こんにちは。いよいよ新学期の始まりですね。
今回は整形外科を紹介させていただきます。

整形外科＝骨を扱う科、というイメージをもたれる学生さんが多いかと思いますが、実は骨だけではなく、筋肉、靭帯、神経などの体を動かす器官、すなわち『運動器』を扱う診療科です。内臓、感覚器、生殖器を除いた首から下の内臓以外、新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となりますので、非常に広い範囲の疾患を扱うこととなります。そのため、整形外科では豊富な専門領域（サブスペシャリティ）が存在します。脊椎外科、関節外科（肩・肘関節、股関節、膝関節など）、スポーツ整形外科、外傷外科、手の外科、足の外科、骨軟部腫瘍外科、小児整形外科、関節リウマチ、骨代謝・骨粗鬆症、運動器リハビリ、産業医などがあり、様々な分野で活躍することができます。整形外科＝力仕事で男の世界（ガテン系）、というイメージもあるかと思いますが、専門領域によっては力仕事が不要であり、女性医師が最前線で活躍している領域も多々あります。

さらに近年の高齢化社会では、寝たきりを防止、健康寿命を伸ばし、いかに快活な生活を送れるかが非常に重要です。私たち整形外科医は運動器を治療、すなわち個々人の運動機能面を改善させることを目標としています。メジャー系の内科・外科の治療目標が生命予後（量）であるとすれば、整形外科の治療目標は健康寿命（質）と言っても過言ではありません。マイナー科として扱われていますが、診療内容はメジャーであると自負しています！！

また、今後どんなに予防医学やAIが発達しても、外傷、運動器疾患、加齢による変性疾患がなくなることはありません。超高齢化の進む過疎地域においても、整形外科はとても必要とされています。今後ますますニーズが高まる診療科ですし、開業しやすいメリットもあります。俗っぽい言い方をすれば、食いつぱぐれることはまずないでしょう(笑) 整形外科は色々な意味で将来性のある素晴らしい診療科だと思います。

前置きがとても長くなりましたが、自治医大整形の紹介です。大学に求められるものは診療・教育・研究と言われておりますが、特に自治医大整形外科では高度な診療の提供、若手医師・学生の教育に力を入れています。大学病院ならではの専門性の高い手術、重症外傷患者の治療はもちろんですが、関連病院と連携し、質の高い外傷・変性疾患の治療を栃木県および近県に提供しています。教育面でも定期的な若手医師の勉強会、骨折治療勉強会の他、学生には手厚いBSL・クルズスを提供し、医局員みんなで整形外科診療の楽しさを伝えています。もちろん研究もおこなっており、臨床研究・基礎研究共に若手の先生の指導、学会発表・論文作成も行っています。決してガテン系の体力勝負ではありません。

自治医大整形外科はチームワークを重視し、学閥もない非常にアットホームな科です。現在は自粛中ですが、学会主導の大学対抗親善スポーツ大会もありますので、オフの時間には野球、サッカーなど、医局員仲良くスポーツも楽しんでおります。新型コロナウイルス感染状況次第ではありますが、随時見学者の受け入れも行なっていますので、興味のある学生さん、研修医の先生は気軽にご連絡ください。



自治医大整形外科 HP より引用

【医師国家試験予想問題】

最近の国試では、実臨床に沿った設問が増えていると聞きます。
今回は整形外科領域での話題の疾患、実臨床でよく遭遇する疾患を出題します。

設問1

ロコモティブシンドロームに関係の少ない内容はどれか。

- a. 休まずに500mなら歩くことができる
- b. SUDOKUを毎日朝夕に1時間ずつ解いている
- c. スポーツジムに週2回通っていたが、やめてしまった
- d. 膝の痛みのため、階段昇降に手すりが必要になっている
- e. 骨粗鬆症と診断されて、整形外科から薬を処方されている

設問2

83歳女性。自宅内で転倒、歩行困難となり救急搬送。既往に特記すべきことはない。股関節エックス線写真を以下に示す。

治療として適切なものはどれか。

- a. 関節固定術
- b. 脱臼整復術
- c. ギプス固定
- d. 人工骨頭置換術
- e. 洗浄・デブリドマン



解答

設問1 : b

ロコモティブシンドロームは2007年に日本整形外科学会から提唱された概念で、『運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態』のことを表します。運動器の障害には、運動器自体の疾患によるものと、加齢に伴って起こる運動機能低下によるものとがあります。ロコモから運動機能が低下、要介護の原因となることがわかっており、ロコモを予防するための運動習慣が推奨されています。設問の選択肢a,c,dはいずれも運動機能の低下を示しています。eは骨折予備軍であり、転倒により骨折、運動器の障害を生じる恐れがあり、ロコモの予備軍といえます。bのSUDOKU(数独)は運動機能に関係がありません。

設問2 : d

日常的によく遭遇するシチュエーションです。転位が少なく分かりにくいのですが、エックス線写真では右大腿骨頸部骨折が読み取れます。頸部内側の皮質の連続性が途切れていることから診断可能です。頸部骨折は関節内骨折で骨癒合が得られにくいこと、寝たきりによる合併症で生命予後が悪化することが知られており、高齢者では骨接合術よりも人工骨頭置換術が推奨されます。